

生物多様性 あいち学生プロジェクト 第4回ワークショップを開催しました！

2020年2月18日（火）に、「生物多様性 あいち学生プロジェクト」第4回ワークショップとして、企業の森を巡るバスツアーを開催しました。計32名の参加者が、企業の生物多様性保全の取組に触れることができました。その様子をレポートいたします。

① トヨタの森

トヨタの森は、トヨタ自動車が生産工場敷地内に整備した、総面積約45ha（東京ドーム9個分）の広さをもつ森林です。ここでは、生物多様性を保全する様々な取組が行われ、これまでに動物400種、植物450種以上の生き物が確認されています。年間を通じて、一般の方向けにも自然体験のプログラムが開催されています。

この日は、まず環境学習館でトヨタ自動車の環境取組等について説明を受けた後、2グループに分かれて、インタプリターさんに森林内を案内していただきました。タカノツメの落葉の匂いや枝の味を感じたり、目をつぶって林道を歩いたり、五感を使って自然を体感するプログラムを体験しました。また、ビオトープ池でのヤマアカガエルの卵を観察などを題材に、食物連鎖や環境保全等について考えました。

貴重な自然体験の後、会議室に戻り、生物多様性の保全に向け学生としてどう取り組んでいくかについての議論を行いました。外来種対策や情報発信の方法についてアイデアを出すとともに、オール愛知で生物多様性保全に取り組む学生団体を結成することが確認され、リーダー等の役割や、次年度の事業計画案などが決まりました。



② ECO35

名古屋市熱田区の住宅街に位置するECO35は、㈱三五により整備された都市型ビオトープです。汚染された土壌の浄化から始まったこの森づくりは、社員とその家族による植樹活動などにより、都心の住宅街に豊かな地域生態系を再生するに至りました。企業によるこうした環境への取組は、学生達にとって非常に新鮮だったようで、皆真剣に聞き入っていました。

㈱三五の取組について説明を受けた後、実際のビオトープについて見学させて頂きました。社員の皆さまの案内のもと、緑地を見学したり、森の中に隠されたアイテムを探すことで保護色を学ぶプログラムを体験したりしました。

ビオトープ見学後は、見学で感じた内容を各自が整理してビオトープカードに記入し、㈱三五担当者に伝えると共に、

学生団体の今後についての

ワークショップも行いました。新たに立ち上げる学生団体の名称について、学生達から候補ネームが多数挙がり、多数決により「G A I A」と決定しました。

オオキンケイギクのような外来種駆除など、今後学生と企業とが連携した活動が展開できると良いという意見もありました。



③まとめ

学生達にとって、普段なかなか接することのない企業の取組を知り、生物多様性に触れることができたのは、貴重で刺激的な体験だったようです。この回の議論を通じて、学生やご協力いただいた企業の多くの方々から、「外来種駆除や啓発活動など、企業と学生がコラボして、取組を広げていけると良い」との意見がありました。

今回、生物多様性保全の活動に取り組む学生団体として「G A I A」の結成が決まりました。これから、様々な団体と連携も図りながら、オール愛知のコースとしての活動を展開し、連携の輪を広げていきたいと考えています。